

茗溪学園 2022 シンポジウム挨拶

茗溪学園中学校高等学校

校長 宮崎 淳

1. 従来の在り方についての反省

本校も世間一般に進学校と言われる学校と同様、「一流」とされる大学への合格者を増やすことを目標として、合格者数を実績として生徒募集に繋げることを是としていた時代がありました。複数の雑誌は合格実績を煽り、あたかも「大学合格実績」が学校（高校・中等教育学校）の「評価と価値」であるというような風潮が未だに（この先の時代も）あるなか、従来の受験スキルの習得を軸とした授業の在り方を反省し、本来あるべき中等教育の実践を行うために、IB(DP)コースと AC コースを開設しました。

2. この先の時代の中等教育に期待されるもの

本校が目指す教育の一つは、高等教育に積極的に取り組むことの出来る基本的な資質を持った生徒を育成することです。本校も過去、前倒しで中学高校の教育課程を終わらせ、残りの時間を大学入試演習の反復練習にあてるという方法も用いたカリキュラムを組んでいましたが、学理的には知識を反復しているにすぎないという反省に立ち、AC コースの実践に取り組んでいる次第です。

この先の時代を力強く生きて行くための実力を備えた生徒を育成するためには、生徒一人一人が教師と同様（時には教師以上）に各教科の内容を深く理解し、高等教育へ向かうにふさわしい基礎的、基盤的な学理への正しい姿勢を、中学1年生の段階から身に付けていくことが大切であると考えています。

3. 教員、生徒、保護者の皆様へ

上記2の目的を達成するために、教員は生徒と同じく学ぶ姿勢を明確に持ち、学理的に基づく授業の準備と教育への誠実さを堅持することが、個々のキャリア形成においても重要な課題となります。

生徒の皆さんは教員の発信を誠実に受け止めると共に、発信された情報を友人とともに常に相対化して批判的に見る眼差しを持ちながらも、謙虚さを忘れることなく取り組んで欲しいと願っています。

保護者の皆様には、この先の時代を生きて行く子供たちの世界が、私たち大人が歩んできた大量生産型の教育だけでは通用しにくい時代となっていくことを改めて認識していただきたいと思います。そして、お子さんの可能性を信じ、子供には見えない可能性が眠っていることを信じ続けて欲しいと思います。

お子さんの「可能性」とは、目先のテストの点数ではありません。お子さんの「可能性」とは、中学校・高校で学理に基づいた学びの姿勢を養い、この先の不確実な時代において、時には迷い転ぶときがあっても、再度立ち上がり歩むことの出来る思考（工夫や発想の転換等）と心身の耐力を指します。

4. 最後に

本校に限らず、世界基準で見れば消費期限切れとも見られる過去（昭和中期から現在）の日本の教育実践に疑問を持ち、新たな取り組みをされている教育関係者は全国に多数います。その実践を点で終わらせることなく線にするためにも、今後は学校の垣根を超えた勉強会を開催していきます。現状に甘んじることなく、この先の時代の中等教育に必要なとされ求められる学びの在り方を、この先の時代を生きて行く生徒に必用とされる学びの在り方を、皆さんと一緒に作っていきたく思います。